



和尚さんのよろず話

能登半島では、復興が追いつかず、厳しい新年を迎える事となり心が痛むばかりです。早く復興することを願います。日本全体を見れば、おかげさまで比較的穏やかな新年が迎えられた様に思います。本年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、令和7年は二黒土星・乙巳（きのと・み）の年です。どのような年になるのでしょうか。お手元にある「最上宝暦」の一番後ろの折り込みをご覧ください、方位をみると二黒土星は南西・坤^{こん}の方位、乙は東、巳は東から南への方位にあります。また、恵方は西南西です。

仏教の教えの中に「忍辱^{にんにく}の鎧を着る」という表現があります。

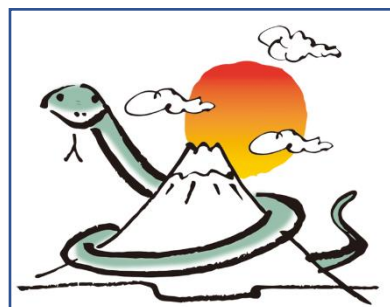
『岩波仏教辞典』第三版によると、「忍辱^{にんにく}とは、堪忍^{かんにん}すること、耐え忍ぶこと。大乘の菩薩の修行徳目である六波羅蜜^{ろくはらみつ}の一つ。あらゆる侮辱^{ぶじやく}や迫害に耐え忍んで怒りの心をおこさないことで、これを修行実践することによって、すべての外からの障害から身を保護することができるので、「忍辱の衣ころも」「忍辱の鎧よろい」〔法華経法師品、勸持品〕といわれる。」とあります。少し難しい言い回しですが、修行という目標に向かって行く途中には、「修行してもしかたないよ」「無駄だよ」「もっと楽しいことをしようよ」といった惑わされる事が多々あるということです。「それでも耐えて目標達成に進みますか？」という自己への問いかけなのです。

今年の乙（東・太陽が昇る）は発芽した草が地中から地面（太陽の光がよく当たる）へ出る時のイメージです。土という抵抗がありますが、よじって伸びていきます。巳もくねくねしており、右往左往しながらも前へ進んでいきます。また、成長する時は古い殻を脱いでいきます。

このように見ると、まさしく今年は忍辱の年ということになります。各自が古い物や習慣を見直して前に進みましょう。横やりや妬み嫉み^{ねた そね}もあると思いますが、信心の心を強くして、周りや情報に振り回されないようにしたいものです。

九星の二黒土星は安定した動きで整う事を意味しますので、今年は地盤が固まり、続いていく礎が出来る年回りになると思います。

それには何を置いても健康が第一です。無理をせず、心穏やかに過ごして良い一年にして下さい。 合 掌



◇ 行事報告 ◇

12月18日（水）摩利支天月例祭

令和6年最後の式典は無事に納めることが出来ました。ありがとうございました。

1月1日（水）除夜の鐘



午前零時より約26名の方が参加され、お題目を唱えながら除夜の鐘を撞き、罪障消滅を願い、新たな気持ちで新年を迎えました。

富山総代より、新年のご挨拶がありました。

毎年、住職不在の中、皆様のおかげで、今年も気持ちの良い新年が迎えられました。有り難うございました。

◇ 令和7年元旦へ ◇

仏像のほこりを落として、御宝前のお掃除をし、幣束、注連縄を取り替え、正月飾りができ、妙法華寺も新年をお迎えする準備が整いました。

令和7年が皆様にとって良き年となりますよう、祈念いたします。



◇ 行事案内 ◇

開運星祭（厄除け祈願）

2月4日（火）午前10時より本堂にて、「年中安全、厄除け諸難除け」の特別祈禱を行います。当日は、申込された御札一体一体にお香を通し、木剣修法を行い、御札に魂を入れます。**お申し込みがまだの方は、至急お申し込み下さい。**

なお、お申し込みをされて、当日ご参加出来ない方には、後日お送りいたします。

摩利支天月例祭

2月18日（火）、3月18日（火） 午前10時より執行いたします。

多くの摩利支天様がお座り頂いた御宝前にて各家の家内安全、身体健全を祈願し、お加持を受けます。皆様のご参加をお待ちしております。

なお、お供えは、摩利支天様一体千円以上、お賽銭百円以上を申し受けます。

◇ 近況 ◇

当山の奇在（活動の元となるお寺）として長年手伝いをして頂いた岡嶋泰辰上人が九州の元のお寺の所属に戻られました。最上稲荷には今後も勤めますので、何かの折りに顔を見せてくれるかもしれません。長年ありがとうございました。